

令和8年度 第1回忠岡町障害者施策推進協議会 要録

日 時 令和8年8月21日(金) 午後1時30分～3時10分

会 場 忠岡町役場3階 研修室1・2

出席者 吉池委員(会長)、八木委員(副委員長)、森田委員、花野委員、吉田委員、
佐竹委員、仲喜委員、二重委員、亘委員、松阪委員、中川委員

欠席者 石原委員、森委員、中井委員、小見山委員、芥川委員、松浪委員

町側出席者 是枝町長、柏原教育部長、森野福祉課長、堀井主事、富永主事
藤原こども課長、こども課米田、こども課田上、大西学校教育課長
伊藤教育課長、泉健康づくり課長
委託業者 株式会社ぎょうせい今中、安井(愛)、福島

傍聴者 2名

議題

1. 第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画の骨子案について
2. 忠岡町福祉に関するアンケート調査報告について
3. 忠岡町第5次障がい者計画の考え方について
4. 令和8年度施策推進協議会の開催スケジュールについての確認
5. その他

配布資料

- 資料1 第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画の骨子案
- 資料2 忠岡町福祉に関するアンケート調査報告書
- 資料3 忠岡町第5次障がい者計画の考え方
- 資料4 策定スケジュール

(議題 1) 第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画の骨子案について

福祉課堀井より、資料 1「第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画の骨子案」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(中川委員) 未達成の部分で、特に地域移行に関するところについて。国の方針として、今後、町で開所される予定の基幹相談支援センターに、「地域移行のコーディネーター」の機能を乗せてきていると思うので、基幹相談支援センターとともに、忠岡町の皆様が、地域移行について改めて考えていただくステージになるのだと思う。そういう中で、検証で「達成」となっている「1 年以上の長期入院」の 29 名についてだが、令和 5 年～7 年も 29 名となっており、町村のなかでは 2 番目に多い。しかも、退院の動きがない。地域移行に向けてのマネジメントが難しい現状かと思う。これから基幹相談支援センターが設置されるが、地域移行支援を活用した地域移行を 1 人達成することによって地域の事情がよくわかり、地域の基盤としての何が足りないか、などが見えてくるので、町としてのステップアップになると、個人的に思っている。また、精神障がい者の長期入院に関する未達成の部分は、大阪府での数字しか出せないもので、町としての目標として設定することがどうなのかともいつも思っている。過去には、市町村では設定しなくてもいいといったことが後から後出しでアナウンスされたこともある。第 8 期では、指針も確認し、必要時に設定することが重要。第 8 期の指針は、「再入院率」が指標となっている。これは、いかに地域生活を支えていくか、本人が希望する生活を提供することが今後の方針になってくる。退院後、グループホームや有料老人ホームに帰られることが多いが、退院患者調査などを行うと、自宅に帰りたいという希望がやはりある。しかし、自宅に帰られる方は 10%以下というような現状もある。より、意向を反映しながら、家庭に近い状況で地域で受け入れていただくことをどうやって新しく展開していくかということが大事。目標値に関しては、地域移行後、地域でいかに支えていくかという視点で計画を立てていただけたらと感じている。

(吉池会長) 私も前職で精神科に勤めていましたので、1 人の地域移行がいかに重要かということが、本当に想像がつきます。今後、忠岡町でも、自立支援協議会の活動が動き出すと、いろいろな部会でこうしたことを考えるメンバーが集まるので、自立支援協議会にも期待したいと思います。

(森田委員) 資料 14 ページ、障がい児福祉計画の児童発達支援センター「こどもデイケアいずみ」について。「こどもデイケアいずみ」は貝塚市にあるので、車を持っていない方や移動手段が無い方はどのように利用すればいいのか。また、その下の、「地域社会への参加・包容（インクルージョン）の推進体制の構築」につい

て。1か所のこども園に発達課題を抱える子どもが集中することで、他の園に比べて先生の負担は増加しないか。

(こども課米田) 1点目。「こどもデイケアいずみ」について。児童発達支援センターを圏域も含めて市町村に1か所設置ということが義務化されたことを受け、令和6年度に改めて、近隣の施設も含め、新たにお問い合わせできるかも含めて検討した。泉大津市、和泉市の児童発達支援センター、それから田尻町にある、児童発達支援センターに近い形の小規模の事業所である田尻こころ園の3事業所。確認をさせていただいたところ、利用枠もあり、受け入れていただける形にはならなかった。そこで、引き続き、こどもデイケアいずみさんを利用させていただくという判断に至った。基本的に、お車がないご家庭は、バスで送迎しているので、通えているわけだが、急な発熱等の場合は、施設まで保護者が迎えに行かなければならない。そこで、忠岡町として、そういった場合にも、職員2名を配置し、施設の車で送迎いただく体制をお願いした。その制度改正により、以降、利用者数も伸びてきている状況である。2点目のこども園について。本町のこども園は町立1園、民間2園という体制で、民間園での活動内容がお子さんにとって合わないため、過ごせない方は、町立園を選ばれるということもある。町立園は発達課題を抱えるお子さんも多く通園している状況である。加配等も進めているが、全国的に保育士不足が慢性化しており、保育士の確保がかなり難航している状況である。また、昨年6月から、委託契約により、子ども専門の言語聴覚士と理学療法士に月1～2回程度来ていただく事業も開始している。先生方の専門知識を増やしながら、少しでも支援の方法を広げ、先生方の負担と子どもの過ごしづらさを解消できるようにと考えている。

(吉池会長) 資源が限られている中でも努力していくということが課題になっていると思います。アンケート調査報告書P68でも、児童発達支援に力を入れてほしいという意見が上がっています。今後、町で障がい児部会が動き出したら、この辺りのことももっと議論できると思われるので、期待したいと思います。

(議題2) 忠岡町福祉に関するアンケート調査報告について

ぎょうせい今中より、資料2「忠岡町福祉に関するアンケート調査報告書」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) 今一度、この調査結果、そして特に後半の自由意見は、可能な限りお持ち帰りいただいて、目を通していただきたいと思います。とても大事な、生の声がかかれています。本当に、職員の皆様は一生懸命されています。それでも、障がいがあって生活をするのは本当に大変なんだという声があります。もっと繋が

りたいんだとか、シンプルに、高いところに手が届かなくて、そこを助けて欲しいんだとか、いろんな声があるので、ぜひ皆さんにはご覧いただければと思います。先ほどご説明いただいたサービス利用の満足度のところで、「職員の知識や経験が不足している」割合が、倍増しているというのは、私も気になることです。人手がなくて、やむを得ずこの方危ういけど採用するしかないなどというふうな現場の窮状も隠れていると思います。私は虐待防止を専門にしていますが、人手がないことが虐待の根っこになるということもあります。人を増やすことも大事ですが、管理職の研修なども必要になってくると思います。

(中川委員) 資料P9の障害支援区分の認定に関して。区分を受けてない人が62%いらっしゃる。手帳は持っているが障がい福祉サービスを申請されていない方が多いという印象。サービスは必要でないが手帳を所持している方が多いといった印象についての見解等あれば、お聞かせいただきたい。

(ぎょうせい今中) 高齢の方が多いので、介護保険優先でサービスを受けている。

(中川会長) 高齢の方が多いので、まず介護保険サービスを利用するが、特に居宅サービスなどの足りない部分に関して、障害福祉サービスを利用するために重複で認定していただくということが結構増えてきてはいると思う。大阪府でも、全国的にも。それがどのぐらいの数か、もし解れば教えてほしい。

(福祉課堀井) 正確な数を提示するのは難しい。年々、介護保険優先でも追加で障がい福祉サービスの申請をされる方は増えている。地域のケアマネジャー同士の情報交換の中で、こういうケースに関してこういう決定があったといったことが周知され、申請が増えているのかとも思う。

(吉池会長) 私が障害認定区分審査会を担当している豊中市でも同じ傾向があります。アンケート結果をみていると、達成できていると検証している事柄についても、まだまだいろんなニーズがあるのだなというのが気付かされます。特に「場の確保」「機会の確保」のニーズが高いと思います。それから、災害時の対応についてですが、どの事業所でも、避難訓練などをなさっている、あるいは計画を立てられているという状況ですが、障がいのある方がいざ避難所に行った時の課題は、とても多くあります。私は2011年、東日本大震災後の支援で南相馬市に入っていました。そこで、避難所で、皆さん苛立ってきたりすると、変わったことにイライラして、障がいや特性のある方を攻撃するというようなことも見してきました。吹田市では、防災訓練に実際に精神障がいの方に参加してもらって、自分がやってみたらSOSが出せないということがよくわかった、であるとか、みんなが手伝っているのにしんどくて休みたいと言えないとか、そういったこともありましたので、いろいろなことを想定して、準備をしていただければと思います。良かった話で言うと、南相馬市では、とても多動な男の子がいて、皆さんからだんだん煙たがれていた感じでしたが、その子はピアノが弾

けて、朝のラジオ体操でピアノを弾くことで、その子の長所が認知してもらえ、「いいじゃん。すごくいい」と周りが温かくなったといったこともありました。そういう現場でも、長所、「ストレングスモデル」を見る関わりも大事になってくると思っています。

(議題3) 忠岡町第5次障がい者計画の考え方について

ぎょうせい今中より、資料3「忠岡町第5次障がい者計画の考え方」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) 意思決定支援などについてご説明いただきました。このことについて、ご質問でも結構ですし、普段、現場でこう思っているとか、ちょっとした素朴な疑問など、何でも結構ですので、お話できればと思います。私が気になっているのは、とても意識の高い事業者では、どんどん研修を進めて、スキルを高め、あるいはツールを使って意思決定支援を進めておられます。意思決定の前に、意見を形成する環境を整えるということをしています。そこまでやっている現場もある一方で、二極化といいますか、全く、意思決定支援の文字すら知らないというような小さな現場などもあり、格差がある状況です。ぜひ、忠岡町の現場では、もれなくこの意識を持っていただけるようになっていただきたいと思います。

(中川委員) 意思決定支援自体は、だいぶ前、平成の頃から出てきていた考え方で、やはり、意識の高いところは、研修などを進めてきたと思う。私も意思決定支援に関する話し合いに参加させていただいたこともあるが、障がい福祉サービスの現場のみならず、精神科医療の方でも、「パーソナルリカバリー」という考え方が重視されるようになってきており、自ら進んで生活を選択していくという視点で、医療と福祉が同じ方向に向いてきていると感じている。

(中川委員) 事例を紹介したい。30年以上精神科病院に入院されていた近隣の市のケースの方の地域移行に関わらせていただいたことがある。自分は家に帰りたいけれども、家族は高齢であるし、できる支援はしたいと思っておられたが、疲弊や拒否があった。いろいろ資源を探す中で、当忠岡町のグループホームとマッチングがうまくいき、そこに定着され、今、30年ぶりに地域生活を満喫されている。委員の皆さんも、もしかしたらどこかの喫茶店でお会いされているかもしれない。忠岡町には、そういった、地域での受け入れの素地があるということ非常に肌で体感しているところである。意思決定支援といっても、研修は難しいし、一体何をしたらいいのかということところだが、一人ひとり丁寧にご対応いただいて、その方が何を求めておられるか、その方に対して何ができるかを

考えていただくきっかけにさせていただくと思っている。

(吉池会長) 好事例を共有いただきありがとうございます。何か行政の方でお気づきの点などありますか。

(福祉課堀井) 意思決定支援については、ずっと課題に上がっているところである。自立支援協議会の相談支援部会でも、地域の相談員の方々から、本人さんが、昨日まではこう言っていたのに、今日になったらまたこういう言い方になってる、とか、昨日まではグループホーム入りたいって言っていたのに、今日はやっぱり嫌って言ったりとかで、最終的にどういうふうに本人さんを支援していったらいいか悩んでしまうという意見が出ている。みんなが悩んでいるから、意思決定支援について、地域で知見を広げていく取り組みが必要だという意見が先日も出たところ。何かしら取り組み進めていけたらと考えている。

(吉池会長) 委員の皆様方には、釈迦に説法になるかもしれませんが、自立支援協議会という場はとても重要だと思っています。障がい児部会、就労支援部会、虐待防止部会、地域定着部会などで話し合います。私は吹田市で自立支援協議会に参加していますが、残念ながら吹田市はまだ2～3部会しかないのです。一方、モデルにしている大津市では15、20部会くらいあり、困りごとについて、みんなで話し合う。例えば、盆と正月のヘルパー派遣がなかなかうまくいけないといった声が上がって、それをどうするかという部会が立ち上がり、それが条例として制度化していく。そこまでやっている自治体もあります。もちろん、それぞれの自治体の予算に限りがあるので、簡単には比較はできないのですが、自立支援協議会で話し合いが進むと、お金がかからなくてもこれはできるんだとか、じゃあこの人詳しいからちょっと喋りに来てもらったら、といった発展があります。忠岡町でも、部会を進めていただきたいと思います。今の話題の中で何か連想されたことや、ご質問、ご意見など、いかがでしょうか。

(森田委員) 18歳になって学校を卒業した途端、放課後等デイサービスなどを利用して受けていたリハビリの機会が極端に少なくなってしまう現状があると思う。15時以降、作業所から帰ってきた子どもたちが過ごす場所であったり、自分の気持ちを伝える場が少しでもたくさんあれば、自分の将来を決めていくときに、スムーズに決定していくことにつながるのではと思っている。それから健康診断について。学校を卒業した後、作業所などに通い出すと、健康診断を受ける機会が少ない。

(健康づくり課泉) 今、現在の本町の様々な健診については、がん検診は20歳からのものがあったり、国民健康保険の特定健診は40歳以上の方が対象であったり、となっている。現時点で18歳からの方への健診は実施できていない状況だが、今後の課題として引き続き検討を進めたい。

(議題4) 令和8年度施策推進協議会の開催スケジュールについての確認について

福祉課堀井より、資料4「令和8年度施策推進協議会の開催スケジュールについての確認」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) 今の説明についてご確認やご意見いかがでしょうか。

～意見なし～

(吉池会長) 特になければ、このスケジュールに沿って進めていただければと思います。

次回スケジュールについて

福祉課堀井より、第3回協議会は令和8年11月20日13:30～開催予定であり、日が近づいたら追って案内する旨をお伝えした。

以上